

折に触れ 四字熟語

NO.8 『毫毛斧柯』 ごうもう ふか

< 意味 > 災いは小さいうちに取り除いておくべきで、大きくなってからではどうにもならない譬え。芽生えてすぐの小さいうちに取り除いておかないと、やがて倒すのに斧がいるほど大きくなる、という意味。

< 出典 > 「戦国策」 <魏策>

周書曰、綿綿不絶、縵縵若何。毫毛不拔、将成斧柯。

読み下し：『周書に曰く、綿綿たるを絶たずんば、縵縵たるを若何せん。毫毛にして抜かずんば、将に斧柯を成さんとす、と。』

通 釈：周書に「細々としているうちに絶ち切らないと、延び広がってからはどうしようもない。芽生えのうちに抜き取らないと、やがては斧を必要とするようになる」とあります。

*蘇子（蘇秦）が、趙のために（魏、韓、趙、燕、斉、楚の六国の）合従の策を立て、魏の襄王に説いて言ったときの言葉です。

語 釈：毫毛は非常に細い毛。極めて細くわずかな形容。ここでは芽生えどきの小さな木の譬え。斧柯は斧の柄、また斧。

一 言：ついにと言うか、やっとなんか、都知事が辞職することになりました。その報道を読んだり観たりしていると、今年の春先、出張に関わる支出の報道が始まったころ、都知事がきちんと対応していれば、こんな大きな問題には拡大しなかつたろうし、当然辞職に追い込まれるような事態にもならなかつたろう、という意見が圧倒的でした。

参照文献：新漢文大系「戦国策」 三省堂「四字熟語辞典」 漢検「四字熟語辞典」